

日本で21件目の世界遺産



▲世界文化遺産として登録された沖ノ島(福岡県宗像市)

世界遺産とは

●**世界遺産** 世界遺産とは、1972年のユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約」(世界遺産条約)にもとづいて登録されている遺跡や文化的価値の高い建造物、貴重な自然環境などをいいます。これらを保護し、未来の世界に伝えていくことが世界遺産条約が採択された目的です。2017年7月現在の世界遺産登録件数は1073件で、うちわけは文化遺産が832件、自然遺産が206件、両方の要素をかね備えた複合遺産が35件となっています。

●**登録の流れ** 世界遺産に登録したい候補のある国は、候補地の暫定リストを提出します。その上で原則として1年に1件ずつ候補地についての推薦書をユネスコの世界遺産委員会に提出します。ユネスコでは専門家による調査を行い、毎年開かれる世界遺産委員会で登録するかどうかを決定します。登録件数が多くなりすぎたため、新たな登録は、以前よりも難しくなっています。

●**日本の世界遺産** 日本では1993年に白神山地と屋久島が世界自然遺産に、法隆寺地域の仏教建造物と姫路城が世界文化遺産に、初めて登録されました。その後、登録地域がふえ、沖ノ島が登録されて21件になりました。政府は、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン」の推薦書をユネスコに提出し、2018年の登録をめざしています。当初は長崎の教会群もふくめていましたが、ユネスコの諮問機関イコモスから禁教・潜伏期にしばらくこむべきだという評価が示され、原城跡や潜伏キリシタン集落などでの構成となりました。

「神宿る島」宗像・沖ノ島

2017年7月、ポーランドのクラクフで第41回ユネスコ世界遺産委員会が開かれ、福岡県の「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」が世界文化遺産として登録されました。2016年12月には、日本の「山・鉾・屋台行事」が無形文化遺産として登録されました。



沖ノ島は、なぜ「神宿る島」といわれるのだろうか？

キーワード

ユネスコ (UNESCO)

国際連合教育科学文化機関の略称で、国連の専門機関の1つ。教育、科学、文化を通じて、世界の平和と安全をはかることを目的とする。

イコモス (ICOMOS)

国際記念物遺跡会議。非政府組織(NGO)で、ユネスコの世界遺産に関しては、諮問機関として登録の審査や評価を行っている。

●日本の世界遺産



「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」

●「海の正倉院」 沖ノ島では、4～9世紀に、海上交通の安全を祈願する儀式が行われました。調査で銅鏡や勾玉など約10万点の宝物が発見され、そのうち8万点が国宝に指定されています。なかには純金製の指輪やペルシアのガラスなどもあることから、「海の正倉院」ともいわれます。

●神宿る島、沖ノ島 沖ノ島は、九州本土から約60km離れた玄界灘にある、面積約0.97km²、周囲約4kmの小さな島です。島全体が宗像大社のご神体とされ、一般の人の立ち入りは禁止されています。宗像大社の神職が10日ごとに交代で1人だけ、島で生活します。毎年5月27日の大祭では、抽選で選ばれた男性約200人が、体を清めた上で島への立ち入りを認められます。女性は立ち入り禁止で、島に立ち入った人も、島で見聞きしたことを口外してはいけない、島からは一木一草一石たりとも持ち出してはいけないなどの、きびしい掟が定められています。そのため、島の自然や遺物が、手つかずのまま現代に伝わっています。

●宗像大社 宗像大社は、三姉妹の女神をまつる沖津宮、中津宮、辺津宮の三宮からなっています。沖津宮と中津宮は九州本土から離れた島にあって参拝が難しく、辺津宮に多くの方が参拝するため、宗像大社といえば辺津宮を指すことが多くなっています。沖津宮は、沖ノ島に立ち入ることができず、中津宮のある大島につくられている沖津宮遙拝所から拝むことができます。日本書紀に、宗像大社と思われる三宮について記述されていることから、日本書紀が成立したころには、すでに宗像大社が人々の信仰を集めていたと考えられます。

●新原・奴山古墳群 新原・奴山古墳群は、沖ノ島での儀式を伝えた古代の豪族、宗像氏の墓とされています。5～6世紀に築かれた、前方後円墳5基をふくむ41基があります。宗像氏は、すぐれた航海術をもって中国や朝鮮と交流し、沖ノ島で安全を祈る儀式を行いました。10世紀には宗像大社の大宮司の職が置かれ、16世紀まで宗像氏が大宮司の地位につきました。

「山・鉾・屋台行事」が無形文化遺産に登録

2016年11月30日、「山・鉾・屋台行事」が無形文化遺産に登録されました。高山祭の屋台行事、秩父祭の屋台行事と神楽など18府県の33行事がふくまれます。無形文化遺産は、歴史や伝統工芸などを保存し、次の世代に引きつぎとするユネスコの事業です。日本では、2008年に能楽、人形浄瑠璃文楽、歌舞伎が最初に登録され、その後、小千谷縮、結城紬などの伝統工芸も登録されています。



●「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の構成資産

- ①宗像大社沖津宮（沖ノ島）
- ②小屋島（沖ノ島に付随）
- ③御門柱（沖ノ島に付随）
- ④天狗岩（沖ノ島に付随）
- ⑤宗像大社沖津宮遙拝所（大島）
- ⑥宗像大社中津宮（大島）
- ⑦宗像大社辺津宮
- ⑧新原・奴山古墳群

キーワード

山・鉾・屋台

神社などの祭りで、引いたりかついだりするもの。人が綱で引くものは、山、山車、曳山といふことが多い。祇園祭の長刀鉾のように上部に飾りがついたものは鉾という。屋台は、舞や踊りが行われるものを指す場合もあるが、屋根のついた山車全体を指すこともある。



▲高山祭の春と秋の屋台23台が、55年ぶりに勢ぞろいした「総曳きそろえ」（2017年4月29日）